

環境活動レポート

2015年度

(2015年4月1日～2016年3月31日)



株式会社片山化学工業研究所



2016年7月12日発行
2016年7月28日改定

株式会社片山化学工業研究所は、高度経済成長期の公害問題を機に本格化したわが国の環境対策に歩調を合わせ、「水の化学」から「環境の科学」へと事業ドメインを広げ、環境負荷を低減する製品・サービスを次々と開発し、社会へ提供してきました。

一方私たちは、経営理念にも掲げている「脚下照顧」に基づき私たち自身も足元を照らして自らを顧みながら日々活動するために、自らの事業活動による環境負荷の「見える化」を行うべく本活動報告書を公開しています。この一年も排水処理に新たな製品を提供するなど数々の新製品を社会へ提供しながら、自らの省エネルギー・省環境負荷への取り組みを行ってきました。事業活動が活性化し、また変化することによって私たちの活動による環境への負荷も変化しますが、常に持続可能な社会の発展に貢献していきます。

環境管理責任者 中西敬昌

■目次

環境方針	2
組織の概要	3~4
認証・登録の対象組織・活動、主な環境負荷の実績	4~5
環境負荷の目標	6
環境負荷の目標及び実績 事業所別	7~8
環境活動計画の取組結果とその自己評価	9~10
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	10
適用される主な環境関連法規	11
代表者による全体の評価と見直し	11
環境活動状況の紹介	11



環 境 方 針

私たちは、「脚下照顧」「自他不二」の理念に基づいて「社会の持続可能な発展に貢献する」という当社の使命を果たすため、事業活動を通じて環境問題に取り組むと共に、地域の環境活動に自主的かつ積極的に取り組めます。

1. 環境関連法規制、当社関連規定及び利害関係者との環境にかかわる同意事項を遵守する。
2. 事業活動に関わる二酸化炭素の排出量などの環境影響を継続的に改善する。
3. 廃棄物の削減に努め、可能な限り再資源化に努める。
4. 排水量の削減に努める。
5. 調達する原料、材料その他のものは環境に配慮したものを購入するよう努める。
6. 環境負荷に配慮した製品の開発およびサービスの提供に努める。
7. 本方針を従業員および業務に関係する全ての人に周知し、教育と啓蒙活動を実施する。

また、私たちは化学薬品を扱う企業として社会的責任を果たすため、取り扱う全ての化学物質の管理手法を明確にし、有害化学物質の使用の最小限化に努めます。

1. 関係法規制などで規制される化学物質の管理を徹底し、法規制を順守する。
2. 取扱う化学物質の環境影響を最小限にするよう配慮し、製品に含有する環境負荷物質の削減・代替を推進する。
3. 従業員の化学物質管理に対する意識向上のため、化学物質情報の周知徹底を図る。

以上の当社の「環境方針」は、当社の HP にて一般に公開します。

制定日： 2011 年 7 月 4 日
改定日： 2016 年 6 月 20 日
株式会社 片山化学工業研究所

代表取締役社長

片山博彦

■組織の概要

(1) 名称および代表者名

株式会社 片山化学工業研究所 代表取締役 片山 博彦

(2) 所在地

本社：大阪府大阪市東淀川区東淡路 1-6-7

東京営業所：東京事務所 東京都千代田区岩本町 3-11-9 KDX 岩本町ビル 3F

：JFE 構内事務所 千葉県千葉市中央区新浜町 1

JFE スチール(株) 東日本製鉄所 千葉地区構内

鹿嶋営業所、鹿嶋分析センター：茨城県鹿嶋市光 3 新日鐵住金（株）鹿嶋製鐵所構内

名古屋営業所：愛知県大府市共和町 3-18-15

和歌山営業所、和歌山分析室：和歌山県和歌山市湊 1850 新日鐵住金（株）和歌山製鐵所構内

九州営業所：福岡県北九州市小倉北区浅野 2-11-15 KMMビル別館 3F

白浜海洋試験室：和歌山県西牟婁郡白浜町 3775-24

綾部工場：京都府綾部市とよさか町 5 番

(3) 環境管理責任者氏名および連絡先

取締役 中西 敬昌 TEL：06-6322-0176

(4) 事業内容

株式会社片山化学工業研究所は、創業以来「水」をテーマに事業を展開し、早くから産業の発展と環境保全の調和を目指し、「水の科学」を探求しつづけてきました。そして 2004 年には、水処理薬品の世界規模メーカー、NALCO 社と「水処理業界最強のコンビネーション」である合弁販社、片山ナルコ株式会社を設立。同社への製品供給を軸に、さまざまな事業を展開しています。

化学品製造販売

（水処理分野、製紙パルプ分野、石油精製分野、水産動物用医薬品、土壌改良、木材および住宅用防蟻防かび剤、その他環境負荷低減薬剤等）

環境分析（計量証明分析）

（水質／大気／地下水／飲料水／土壌／農薬／PRTR 物質／作業環境測定／騒音・振動等）

(5) 事業規模

売上高 58.2 億円 (2015 年度：全社)

自社工場生産量 18,240 トン (2015 年度：綾部工場)

(2016 年 6 月現在)

	本社	東京	千葉	鹿嶋	名古屋	和歌山	白浜	九州	綾部 (対象外)	全社合計 (綾部を除く)
従業員数	145	1	1	22	1	4	0	3	(50)	177
延べ床面積 [m ²]	7,000	191	192	490	410	206	96	110	(19,014)	8,695

(6) 事業年度

4月～3月

■認証・登録の対象組織・活動

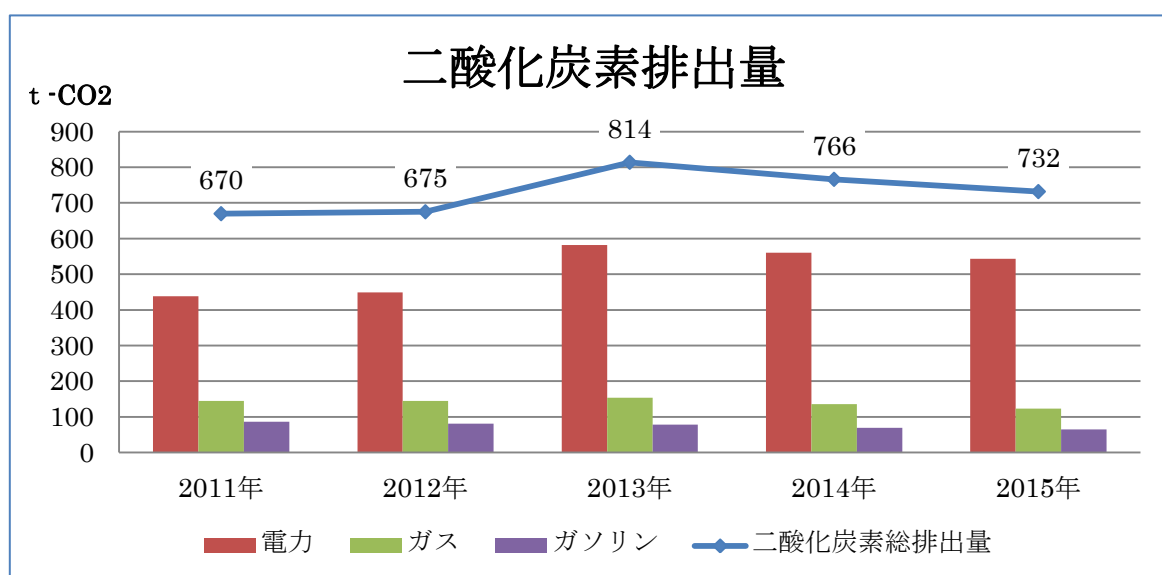
エコアクション 21 認証登録対象組織名	本社、東京営業所、東京営業所（JFE 千葉構内）、鹿嶋営業所・鹿嶋分析センター、名古屋営業所、和歌山営業所・和歌山分析室、白浜海洋試験室、九州営業所
対象外組織	綾部工場（ISO14001 認証取得済み）
活動	化学品製造販売・環境分析

■主な環境負荷の実績

二酸化炭素排出量

単位：kg - CO2

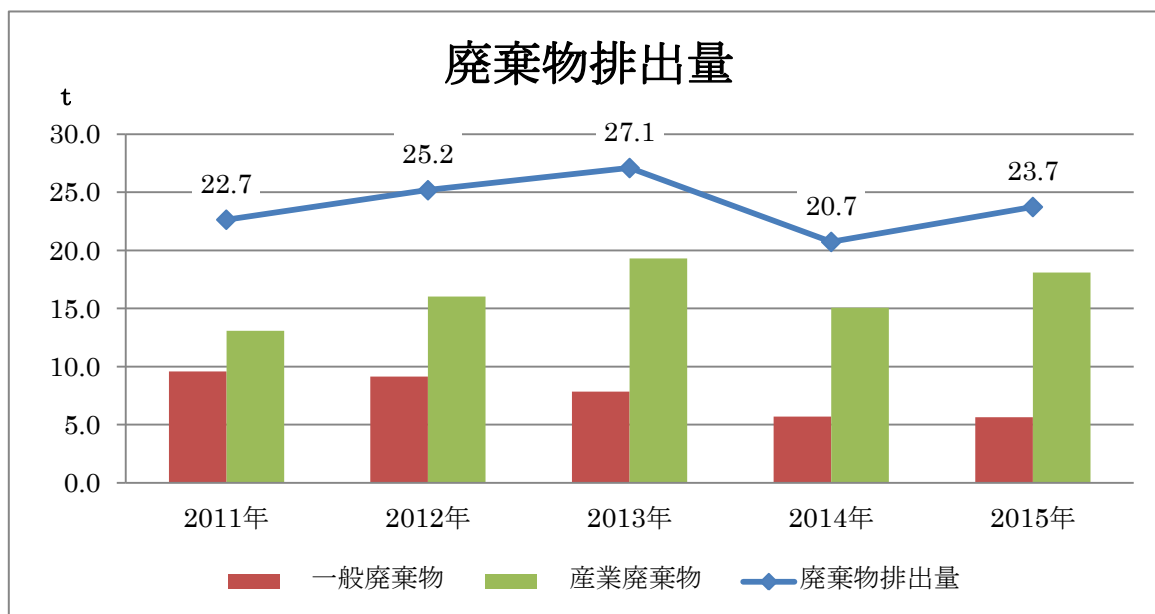
項目	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
総排出量	669,506	674,903	813,627	765,860	731,515
電力	438,632	449,146	582,067	560,489	543,490
ガス	144,843	144,759	153,250	135,840	122,797
ガソリン	86,031	80,998	78,310	69,531	65,228



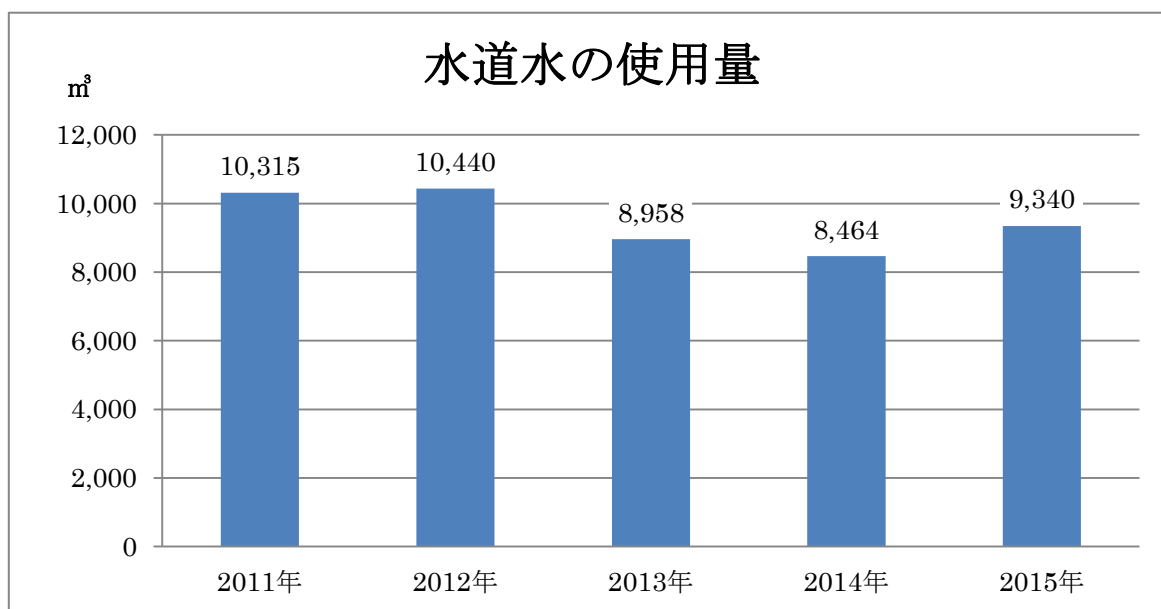
廃棄物排出量

単位:t

項目	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
廃棄物排出量	22.7	25.2	27.1	20.7	23.7
一般廃棄物	9.6	9.2	7.8	5.7	5.6
産業廃棄物	13.1	16.0	19.3	15.1	18.1



水道水の使用量



■環境負荷の目標

項目	単位	基準年 2013年	2016年	2017年	2018年	2019年
電力 二酸化炭素排出量削減 ※CO ₂ 換算係数：0.450	Kg - CO ₂	582,067	538,412	535,502	532,591	529,681
	基準年比	—	92.5%	92.0%	91.5%	91.0%
ガス 二酸化炭素排出量削減 CO ₂ 換算係数：都市ガス 2.08 LP ガス 3.00	Kg - CO ₂	153,250	121,834	121,067	120,301	119,535
	基準年比	—	79.5%	79.0%	78.5%	78.0%
ガソリン 二酸化炭素排出量削減 CO ₂ 換算係数：2.32	Kg - CO ₂	78,310	64,606	64,214	63,823	63,431
	基準年比	—	82.5%	82.0%	81.5%	81.0%
一般廃棄物	Kg	7,833	5,601	5,562	5,522	5,483
	基準年比	—	71.5%	71.0%	70.5%	70.0%
産業廃棄物	t	19.3	15.0	14.9	14.8	14.7
	基準年比	—	77.7%	77.2%	76.7%	76.2%
水道水	m ³	8,958	8,376	8,331	8,286	8,241
	基準年比	—	93.5%	93.0%	92.5%	92.0%
購入資材への環境配慮	事務用品のグリーン購入比率向上の推進。					
化学物質管理体制の維持	試薬データベースシステムを用いた管理体制を維持し、化学物質使用量の監視の継続を行い、削減を推進。					
製品・サービスへの環境配慮	環境配慮型製品のテーマアップおよび開発を継続。 PRTR 該当原料のアイテム数を監視し、削減を推進。 SDS の確実な提供。					

※ 2013年：CO₂換算係数の見直しを行いました。

※ 電力、ガス、ガソリンの目標については、2019年目標を達成したため、上方修正を行いました。

※ 産業廃棄物の目標については、スラグ分析受注増加により、下方修正を行いません。

■環境負荷の目標及び実績/全社（2013年度を基準年度とする）

項 目	単 位	2013 年度	2015 年度	
		実績	目標	実績
電力 二酸化炭素排出量削減 ※CO ₂ 換算係数：0.450	Kg - CO ₂	582,067	557,620	543,490
	基準年比	—	95.8%	93.4%
ガス 二酸化炭素排出量削減 CO ₂ 換算係数：都市ガス 2.08 LP ガス 3.00	Kg - CO ₂	153,250	135,013	122,797
	基準年比	—	88.1%	80.1%
ガソリン 二酸化炭素排出量削減 CO ₂ 換算係数：2.32	Kg - CO ₂	78,310	69,148	65,228
	基準年比	—	88.3%	83.3%
一般廃棄物の削減	Kg	7,833	5,640	5,647
	基準年比	—	72.0%	72.1%
産業廃棄物の削減	T	19.3	15.0	18.1
	基準年比	—	77.7%	93.6%
水道水の削減	m ³	8,958	8,421	9,340
	基準年比	—	94.0%	104.3%

■環境負荷の目標及び実績 事業所別：本社（2013年度を基準年度とする）

項目	単位	2013年度	2015年度	
		実績	目標	実績
電力 電力使用量の削減 ※CO ₂ 換算係数：0.450	Kg - CO ₂	536,439	513,908	493,014
	基準年比	—	95.8%	91.9%
ガス 二酸化炭素排出量削減 CO ₂ 換算係数：都市ガス 2.08 LPガス 3.00	Kg - CO ₂	152,346	134,216	122,066
	基準年比	—	88.1%	80.1%
ガソリン 二酸化炭素排出量削減 CO ₂ 換算係数：2.32	Kg - CO ₂	35,317	31,185	26,806
	基準年比	—	88.3%	75.9%
一般廃棄物の削減	Kg	5,359	3,859	4,411
	基準年比	—	72.0%	82.3%
産業廃棄物の削減	t	15.4	12.0	17.6
	基準年比	—	77.7%	114.3%
水道水の削減	m ³	7,705	7,243	7,998
	基準年比	—	94.0%	103.8%

■環境負荷の目標及び実績 事業所別：本社以外の事業所（2013年度を基準年度とする）

項目	単位	2013年度	2015年度	
		実績	目標	実績
電力の二酸化炭素排出量削減 CO ₂ 換算係数：0.450	Kg - CO ₂	45,628	43,712	50,475
	基準年比	—	95.8%	110.6%
ガスの二酸化炭素排出量削減 CO ₂ 換算係数：都市ガス 2.08、 LPガス 3.00	Kg - CO ₂	904	797	731
	基準年比	—	88.1%	80.8%
ガソリンの二酸化炭素排出量削減 CO ₂ 換算係数：2.32	Kg - CO ₂	42,993	37,963	38,422
	基準年比	—	88.3%	89.4%
一般廃棄物の削減	Kg	2,474	1,781	1,236
	基準年比	—	72.0%	50%
産業廃棄物の削減	t	3.9	3.0	0.5
	基準年比	—	77.7%	20.1%
水道水の削減	m ³	1,253	1,178	1,342
	基準年比	—	94.0%	107.1%

■環境活動計画の取組結果とその自己評価（全社）

○よくできた △不十分だった ×まったくできなかった

項 目	取組計画 (基準年度比目標)	活動計画 実施状況	コメント・改善すべき点
電気使用量の削減	電気使用量 4.2%削減	○	4月からの鹿嶋分析センターの稼動アップに伴い、拠点の削減目標は未達となりましたが、本社地区では、電力の消費割合が高いスクラバーの運転管理を更に徹底し、休日・夜間の運転停止時間を増やし、消費電力全体の約3%に相当する約4万kWhの削減が実施できました。2 その他、各部門で不要時の照明の消灯や、不要な吸気ファンの運転停止などの活動を実施した結果、全社で6.6%削減の結果となりました。
ガス使用量の削減	ガス使用量 11.9%削減	○	大阪分析センター、技術開発部で実験室のエアコン（GHP）管理温度の見直しを行い大幅にガス使用量が削減されました。また、実験室の夜間運転を可能な限り停止する活動についても継続的に実施し、19.9%削減の結果となりました。
ガソリン使用量の削減	ガソリン 使用量 11.7%削減	○	活動の結果、16.7%削減できました。 営業部門のエコドライブの推進により、ガソリンの使用量が削減されました。今後は、燃費も考慮した目標設定と活動の評価を行い、活動の効果を適正に評価する体制として、ガソリン使用量の削減に取り組みます。
一般廃棄物の削減	排出量 28.0%削減	△	活動の結果、27.9%削減の結果となりました。 全社的に一般廃棄物削減意識が向上した事もあり、目標をほぼ達成しました。 今後も継続して廃棄物の削減に取り組みます。
産業廃棄物の削減	産業廃棄物処分 に関する見直し、 適正化 排出量 22.3%削減	×	土壌やスラグの分析試料返却活動を維持するとともに、現場試験用の製品が廃棄にならないよう管理を強化し、削減に取り組みましたが、スラグ分析の依頼が大幅に増えた事で、目標未達の結果となりました。 2016年度については、スラグ分析の依頼が若干減少する見込みになっていますが、例年に比べると多いことが予想されることから、2015年度の目標値を継続し、廃棄物の削減に取り組みます。
水道水の削減	水道使用量 6.0%削減	×	スクラバーの定期点検実施により、補給水のボールタップ異常による漏洩などに早期発見・対応できる体制を整え、無駄な水道水の使用を防止する活動を実施しています。 今年度は、工事業者により、意図せずに補給水バルブが開放されてしまったこと、および4月からの鹿嶋分析センターの稼動アップに伴う使用量の増加もあり、目標達成には至っておりませんが、継続的に活動を実施していきます。

項目	取組計画 (目標)	活動計画 実施状況	コメント・改善すべき点
購入資材への環境配慮	グリーン購入比率を量的に把握できる管理体制の確立	△	グリーン購入ガイドラインに基づいた仕入れ先の管理に取り組みました。 原料の PRTR 使用アイテム数を監視の指標とし、2013 年度の使用アイテム数の削減に取り組みます。
化学物質管理体制の構築	試薬管理システムを基盤とした化学物質管理体制構築	○	試薬管理システムを基盤とし、使用量の把握を行っていません。PRTR 物質の削減取り組みとして、技術開発部にて、試験器具の洗浄に使用する薬剤を再利用する改善を行なった成果もあり、2013 年度比で 4%削減の結果となりました。PRTR 物質代替品の可能性が検討できるものについては、随時検討を行う事とします。
製品・サービスへの環境配慮	環境配慮型新製品のテーマアップおよび製品化	○	2015 年度も環境配慮型製品を新規に開発・上梓し、社会的な環境改善に貢献しました。今後も、顧客のニーズに対応できる環境配慮型製品の開発を推進します。

■環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

労働安全衛生法に係る是正勧告 1 件発生

事業所：鹿嶋営業所・鹿嶋分析センター

是正勧告日：平成 27 年 6 月 8 日

法条項等：労働安全衛生法第 12 条の 2（労働安全衛生規則第 12 条の 4）

違反事項等：安全衛生推進者等の氏名を作業場の見やすい箇所に掲示する等により関係労働者に周知していないこと。

是正報告日：平成 27 年 6 月 24 日

その他、行政をはじめ外部からの環境関連法規に係る違反、訴訟はありませんでした。

適用される主な環境関連法規

環境関連法規	適用対象となる事項	遵法評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラスチック、汚泥、廃酸、廃油、廃アルカリ等）の管理	○
毒物及び劇物取締法、消防法 P R T R法、土壌汚染対策法	試験・研究用の化学物質の管理	○
下水道法	試験・研究排水の下水道排水水質管理	○
水質汚濁防止法	試験・研究用の洗浄施設は特定施設として届出	○
作業環境測定法	試験・研究施設内の作業環境管理	○
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法	PCB 汚染物（汚染試験器具等）の保管管理	○
浄化槽法	拠点（鹿嶋）事務所棟排水施設の管理	○

■代表者による全体の評価と見直し

2015年度、スラグ分析の受注が大幅に伸びた結果、産業廃棄物の削減目標が達成できませんでした。しかしながら、これは当社の顧客が環境規制を遵守する為に必要とする当社の分析サービスを高く評価した結果です。従って、単に総量を管理するだけではなく、受注単位当たりの廃棄物量を管理し、削減するよう見直します。

平成26年の労働安全衛生法の改正により、化学物質のリスクアセスメントの実施が義務づけられました。当社は現在、安全安心な製品と職場環境の実現を目指し、危険性や有害性が確認されている化学物質はもちろん、すべての製品の原料及び分析と研究開発で扱う化学物質を対象としてリスクアセスメントの実施を推進しています。

代表取締役 片山博彦

■環境活動の紹介

グリーン調達活動

当社は環境に配慮した製品の開発およびサービスの提供に努め環境に配慮した製品の開発およびサービスの提供を実施しています。その為に、取扱う化学物質の環境影響を最小限にするよう配慮し、製品に含有する環境負荷物質の削減・代替を推進しています。

製品開発事例

私ども、株式会社片山化学工業研究所は安心・安全で環境に配慮した製品・サービスを生み出すべく、日夜、研究開発に取り組んでおります。コア事業の研究開発はもちろんですが、既存の技術と新しい技術をマッチングさせることにより、新たな事業領域へ挑戦しています。「お客様が抱える問題に真摯に向かい合います」をモットーに分野を制限することなく、今までに経験したことのない事業領域へも積極的に挑戦していきます。